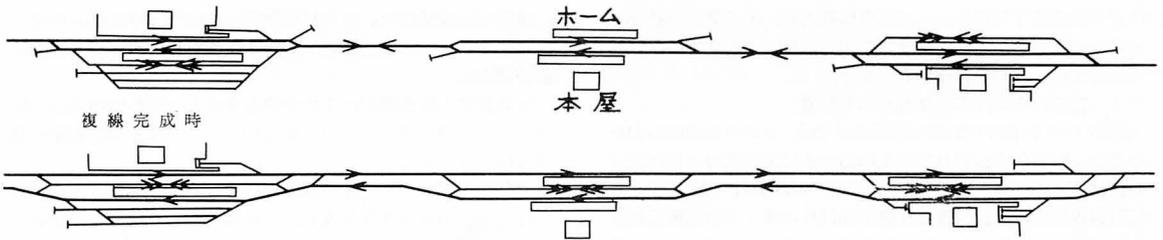


単線時

1. 単線を複線に変更



東海道線をはじめ、すべての幹線の建設時代は線路網の拡充が急務であったため、単線のまま建設されたが、輸送量の増加に伴って東海道・山陽の順に複線化を図り、第2次大戦後は北方幹線に主力が注がれ、主として東北線の仙台以北および北陸線の複線化を実施している。

社線時代より複線化に着手し、だいたい西に向って進み姫路まで早く複線化されたが、国有後は東海道線のように全面的に複線工事にかかるようなことはなく、行詰りを生じた区間より逐次複線化を図り昭和5年はほぼ完成した。

線路増設経過年表

線数別線路延長 (単位 km)

年度	線数別線路延長 (単位 km)								合計
	単線	2線	3線	4線	5線	6線	7線	8線	
明治5	29								29
20	363	30							393
40	6,413	731	6	2					7,152
大正10	9,340	1,455	3	32	1	2	2		10,835
昭和1	10,918	1,865	20	79	1	2	2		12,887
11	15,253	1,946	19	184	3	15		2	17,422
21	17,198	2,064	43	212	8	9		2	19,536
26	17,323	2,061	43	220	8	9		2	19,666
31	17,618	2,134	33	222	11	15		2	20,037

区間	線増年次		区間	線増年次	
	2線	4線		2線	4線
神戸~兵庫	明22.9	昭12.5	海田市~広島	明36.12	昭19.2
兵庫~姫路	" 32.1	" 13.9 (鷹取まで)	広島~岩国	昭3.7	
姫路~岡山	大12.6	" 14.1	岩国~徳山	" 19.10	
岡山~福山	" 14.1	" 14.8	徳山~小郡	" 5.6	
福山~三原	" 14.8	" 13.6	小郡~下関	" 3.11	
三原~海田市	" 13.6		下関~門司	" 19.8	

(1) 東海道本線

明治9年新橋・品川間が最初に複線化され、続いて明治29年東海道全線の複線化に着手し、明治45年大井川橋梁(きょうりょう)の完成により全線の複線化を完成した。

(3) 東北本線

上野・大宮間は明治25年複線化され大宮より先宇都宮までは明治末期より大正初期にかけて完成し、その後大正中期に仙台付近が線増された。第2次大戦後は北海道開発に伴ない輸送量が増加し、各所に行詰りを生じて来たので、行詰り区間より順次複線化に努めている。

(4) その他の線区

函館・室蘭・常磐・高崎・鹿児島・筑豊本線等は資源開発線あるいは都市近郊線として、主幹線とは別に早くから部分的に複線化した。→線路容量。(別所多喜次)

区間	線増年次		区間	線増年次	
	2線	4線		2線	4線
東京~新橋	明43.9	大12.3	浜松~名古屋	明41.7	
新橋~品川	" 9.12	明42.12	名古屋~米原	" 42.6	
品川~横浜	" 14.5	大3.12	米原~大津	" 35.6	
横浜~国府津	" 33.4	昭3.3 (平塚まで)	大津~京都	大10.8	昭19.12 (3線)
国府津~沼津	昭9.12		京都~大阪	明32.2	昭13.12
沼津~浜松	明45.7		大阪~神戸	" 29.3	" 12.10

(2) 山陽本線

2. 改良線増設一般図

